

2748-A(9)

NO. 9

昭和十五年十一月二日

蘭領印度特派使節  
小林一三

外務大臣 松岡洋右 殿

報告

- 第一 經過報告
- 第二 現狀ノ説明
- 第三 南方政策
- 第四 獨逸人ノ勢力

外務省

LMT 506

116

第一 經過報告

一 九月二日門司出港十二日爪哇上陸

一 十二日ヨリ十四日（土曜日）迄各方面訪問招宴等

一 十六日第一回會談（經濟長官フアン、モーク氏、司法長官エン  
ト、ホーヘン氏、貿易課長ホツホ、ストラーテン氏）

先方ノ申出ハ「各部門ノ専門家ヲ集合セシメ其ノ事務所モ完備  
セル故、双方要求又ハ希望ノ全部ヲ提出シ直チニ會談ニ移リ度  
シト主張ス

當方ハ、先ヅ第一ニ石油問題ヲ解決シ、然ル上ニテ他ノ問題ニ  
進ミ度シ、元來石油問題ハ日本ニ取ツテハ絶体的國策デアツテ  
萬一石油問題ヲ解決セザル場合ニハ經濟問題ノ如キハ無意義ニ  
終ルベキモノト思フ云々」

右主張ノ對立ノ解決ニ數回ノ交渉アリ結局當方ノ主張通りニナリ  
東京ニ於ケル契約其ノ他ヲ爪哇ニ移牒シ數回交渉ノ結果十月八日

午後四時蘭印側ヨリ賣却シ得ベキ品質數量ノ一覽表ヲ受取ル  
然ルニ東京ヨリ通知シ來レル品質數量等ト相違ノ點尠カラズ、打  
合セノ結果ニ基キ更ニ交渉ヲ重ネタリ

一十月十五日十六日兩日數回ニ亘リスラピントホテルニ於テ先  
方代表フアン、モーク氏外四名當方一同ト會談、先方ハ機會均  
等主義ニテ専ラ經濟的ニ解決スベキ趣意ヲ説明ス、當方ハ時局  
認識ノ必要ヲ強調ス但シ双方共ニ會商中止斷絶ヲ好マズ結局「  
通商會議ハ遠カラズ石油問題ノ解決ヲ俟ツテ直チニ開始スベキ」  
旨ノ共同コムミュニケヲ決議シ、十六日午後八時發表。

一十七日外務大臣ヨリ歸朝方電報ヲ受取ル  
同時ニ東京ヨリ向井氏へ宛石油打合セニ對スル回答アリ、ソレ  
ニ基キ十七日午後五時ヨリ會議  
其ノ要項左ノ如ク決議ス

(一)石油約二百二十萬噸ニテ東京ハ満足スベキヤ否ヤヲ向井氏ヨ

リ打合ハスコト、内航空用揮發油ハ僅ニ八萬三千噸故、此ノ分ハ當方請求ダケ増加方更ニ交渉スルコト

(一) 契約ハ東京ヨリモ爪哇ニテ取極メルコト

(二) 取引ハ六箇月ト云フガ如キ短期ニ非ズシテ少ク共三箇年ニスルコト

(三) 石油コンセツションハ蘭印側ヨリ進ンデ申出デタル

ボルネオ、セレベス、ニューギニヤ各六十萬ヘクターノ試掘權ハ契約スルコト但シ之ノミニテハ不満足ユエ、以上ノ試掘權ハ承諾スルト同時ニ當方希望地點ノ採掘權ヲ承諾セシムルコト

(四) 右ノ交渉ハ明十八日向井氏ヨリフアン、モーク氏ニ對シ再應交渉スルコト

一十八日ハフアン、モーク氏ノ都合ニテ向井氏トノ會議出來ズ十九日協議ノ結果石油賣買ノ確定シタル分次ノ如シ

種	原	航	揮	重	ガ	フ	ケ	合
類	油	油	油	油	ス	エ	ロ	計
請	油	油	油	油	オ	ル	シ	二
求	油	油	油	油	イ	油	ン	五
總	油	油	油	油	ル			〇
額	油	油	油	油				〇
東	一三		一					五
京	三五		〇					八
爪	〇〇		〇〇					〇
哇	二		△					七
合	五三		〇〇					二
立	〇〇		〇〇					六
計	一五		一					七
差	八八		一					二
引	〇〇		七五					六
過	〇〇		七五					七
不	〇〇		〇〇					五
足	〇〇		〇〇					五
供	〇〇		〇〇					五
給	〇〇		〇〇					五
先	〇〇		〇〇					五

(單位千屯)

ス  
ポ  
ト  
ム

各種輸入割	當分	航揮油	重油	總計	備考
六五〇				三一五〇	(一)
		〇〇			
	〇〇	三三	一六	六二九	
一三八六		〇〇		二二〇五	
一三七六				八四九五	
		三三	一六		
		(+)	(+)	(-)	
一五六		三三	一六	三〇〇五	
S R		S R	S R		
社社		社社	社社		

(二) 各種輸入割當差引不足分一五六千屯外ニ、「ミリ」油（英領「ボルネオ」）一九二千屯合計三四八千屯ヲ見込ムトキハ總計二一九七五千屯トナル

二十九日總領事、太田隨員主席、陸海軍主席、向井氏ノ同意ヲ得テ外務大臣ニ左ノ如ク電報ス

一石油ハ所要總額ノ中東京ニテ約束分ノ外、當地交渉七十三萬噸内揮發油十五萬噸ノ賣買略成立シ尙石油コンセツションモボルネオ、セレベネ、ニューギニヤ等各地ニ於テ六十萬ヘクタールノ試掘權ヲ蘭印政府ヨリ進ンテ開放セラレ當方ハ更ニ其ノ他ノ區域ヲモ追加開放セラレ度旨申出ス計畫ナリ

右ノ事情ニ付、貴地ニ從<sup>ル</sup>日蘭丸ニテ歸國スルコトニ決定セリ近衛總理大臣閣下ノ御了承ヲ御願申上ゲマス

二十一日(月)蘭印總督官邸竝ニ蘭印代表事務所へ歸國ノ挨拶ニ行キ午前一時ヨリ總領事官邸ニテ隨員一同、新聞記者團、日本人會代表者等順次會合歸國ノ理由ヲ説明ス  
本日出港スベキ日蘭丸ヲ明日ニ延バシ午后六時夜行列車ニテバタビヤヲ出發ス

一、二十二日午後二時スラバヤ出港歸朝ノ途ニ就ク  
一、十一月一日午後四時神戸港着同時ニ別紙ステートメント發表  
一、十一月二日午前八時四十五分東京着



神戸港ニ於ケルステートメント（十一月一日）

私ハ今般政府ヨリ歸朝ノ電命ニ接シ歸ツテ參リマシタ

我國トシテ最モ重要ナ石油問題ハ目下折衝繼續中デ未ダ當方ノ希望通り妥結ヲ見テ居リマセンカラ是レ以上御話スルコトハ出來マセン石油問題ノ目鼻ガツキヌスレバ直チニ通商問題其他ノ一般問題ニ入ル事ニナツテ居リマス

通商問題其他ハ相互ノ立場ガ賣リ度イ買ヒ度イト云フ差迫ツタモノハ存外早ク話ガ纏ルト思ヒマス

歐洲ヘノ市場ヲ失ツタ蘭印トシテハ日本ヘ賣ルノガ一番便利デ又蘭印ノ要求シテ居ル商品ハ日本ニ於テモ供給可能デスカラ細カイ技術問題ハ有ルニシテモスラスラ進捗スルモノト信ジテ居リマス  
最後ニ私ノ隨員トシテ行ヲ共ニシタ故石本少將ガ本會商ノ途上殉職サレ本日悲シキ歸國ヲサレタ事ニ對シテハ衷心ヨリ哀悼ノ意ヲ表シマス

第二 現状、説明

一 石油購入増額問題

蘭印側ハ石油賣買ノ方針ニ付テハ一々英米側ト協調シツツアリト推定シ得ルモ努メテ公平ニ處理セントスルノ意嚮アリ  
即チ産出額、既定配給額及日本ニ對スル配給可能ノ限度等ヲ公示スレドモ既定配給割合ヲ變更シ直チニ日本ノ要求ニ應ゼントスルガ如キ態度ニ出テザルハ遺憾ナリ、但シ漸次ニ日本ノ希望ヲ容レ日本ヲシテ將來ノ増額ヲ期待セシムルニ足ル「ゼスチユア」ヲ怠ラザルハ事實ナリ  
通商問題ノ交渉ニ當ツテ或ハ石油増額ヲ持出ス用意アルヤモ計リ知ルベカラズ  
向井氏ノ考ヘハ「石油問題ハ單ニ普通商賣ノ取引トシテ氣長ニ交渉スルナラバ出來ル可能性ハ充分アルト思フ、唯航空用揮發油ハ政治的意味ヲ含ム場合ニ於テノミ六ヶ敷イト思フ。是ト

テモ徐ロニ話合フ場合ニハソコニ理外ノ理モアリ、出來ル様ニ  
努力スルヨリ外途ナシ」ト言フ意味ヲ述ベラレタリ

## 二 石油企業問題

蘭印側ヨリ開放提供セラレタル石油試掘區域ハ廣大ナル面積ナ  
レドモ、見込少キモノトシテ放棄セル部分ヲ提供セルモノナレ  
バ實際問題トシテハ凡テ未知數ナリ、唯ニユ一ギニヤニ對シテ  
ハ南洋興發會社側ハ頗ル有望ナルモノトシテ其ノ開發ヲ計畫シ  
タル事實アルモ其ノ當時日本人ニ對シテハ一切閉鎖主義ヲ固守  
セル關係カラ未着手ニ放棄セルモノナレバ將來有望ナリトノ説  
モアリ

日本トシテハ絛上ノ未知數ノ試掘區域ニ没頭スベキ餘裕ナキ  
ヲ以テ現在採掘中ノ各方面ニ對シ英米側ト同一ニ採掘許可ヲ交  
渉スベキ方針ナルモ蘭印側ハ「既定勢力範圍内ニ日本ノ新企業  
ヲ認ムル場合ニハ交錯紛擾ノ恐レアルヲ以テ之ヲ拒絶ス、既ニ

同一區域内ニ於ケル英米紛擾ヲ妥<sup>協</sup>調節シ漸クニシテ現状ノ安泰ヲ得タルモノナルニ萬一日本ノ希望ヲ容ルル場合ニハ再ビ斯界ノ紛擾ヲ來シ其ノ結果恐ルベキ事態ヲ招來セシムルニ終ルベシト主張シ居ルヲ以テ簡單ニ當方ノ希望ハ達セラレザルベキモ、日本トシテハ遠慮ナク日本ノ考へ通り採掘權許可ノ請求ヲナシ時代ノ推移ニ伴ヒ漸次ニ其ノ目的ヲ達スルヨリ外ニ途ナシ

### 三 重要物資開發問題

我國ノ必要トスル重要資源ノ中錫ハ英、米トノ既定契約ニ基キ今直チニ日本ノ希望通りニ處理スル事ハ不可能ナルモアルミニウムノ原鑛ナルボーキサイト及ニツケル鑛、鐵鑛等採掘ニ對スル蘭印ノ方針ハ其ノ開發ニ伴フ自國ノ利益ヨリ打算シテモ日本ニ許スヨリ途ナキ現状ニ於テハ是コソ利害共通ノ問題トシテ積極的ニ進出實行スベキ可能性ハ充分ナルモ唯共同經營ノ場合ニ於テノミ和蘭側ハ五十五パーセントヲ主張スル等其ノ割當數ニ

多少ノ條件アルヲ覺悟スルナラバ凡テ此種ノ問題ハスラスラト  
解決スベキモノナリト信ズ

#### 四 通商協定問題

近日會議ニ入ルベキ通商ニ付テハ蘭印側ハ歐米輸出商品ノ停滯  
不況、日本側ハ必要物資ノ購入竝ニ各種滯貨ノ處分等双方共ニ  
一日モ早ク解決スル事ノ利益ナル種類ノモノハ夫々適當ニ解決  
スベキモ元來蘭印側ハネバリ強ク猶太人以上ニ懸引アルモノト  
シテ定評アリ、ゴム統制ニ關シ一九三六年ニ成立シタル英蘭協  
定ノ如キ實ニ二百五十回ノ會議ヲ重ネ六箇年ノ長年月ヲ要シタ  
ル根氣強キ實例アリ

今度ノ會商モ相當長引ク覺悟ヲ以テスレバ或ハ却ツテ存外早  
ク纏マルトノ説モアリ、何レニシテモ經濟的通商問題ハ必ズシ  
モ悲觀スルニ及バズト思フ然シ乍ラ一般企業問題、入國問題等  
ハ今直チニ日本ノ思フ通りニ成功スベキヤ否ヤハ頗ル疑問ナリ

蘭印側ハ依然トシテ獨英戰爭ハ英國ノ勝利ヲ確信シ戰勝後ニ於ケル夢ヲ描イテ唯凡ユル今日ノ問題ハ延バシ得ル丈ケ延バシ出來ル丈ケ現狀ニ即シテ處理スル事ヲ目的トシ戰勝後ニハ戰勝後ノ覺悟アリ、今ニ見ヨト言フ忍耐的態度ニテ當面ヲ糊塗シテ行ク方針ナレバ英國ノ全敗、米國ノ參戰等其ノ結果萬一ニモ世界戰爭ニナル事アリトセバ其ノ時々ノ形勢ニ乘ジテ、強壓的ノ手段方法等、今ニ於テ確定的ノ立案ハ却ツテ不利益ナルベシ

日本モ亦世界的情勢ノ推移ニ順應シテ伸縮自在ニ處理シ得ル方法ヲ考ヘテ居ル故、此度ノ會商ハ勢ヒドツチヘ轉ロンデモ損ノユカ無イ程度ニ妥協スルヨリ外ニ途ハ無イカモ知レナイ。今日ノ方針ハ明日ノ方針タリ得ズ、明日ノ方針モ亦斷ジテ永久性ヲ保シ難シトセバ實ハ石油問題モ企業問題モ通商問題モ專ラ煙幕ニ掩ハレル形式的ノモノデアツテ東亞共榮圈ノ大勢ハ斯ノ如キ遊戯的行動ヲ許サヌカモ知レナイト思フノデアアル。即チ南方

政策樹立ノ必要ヲ痛感スル所以ナリ

外務省

INT 506

130

第三 南方政策

外  
務  
省



#### 第四 獨逸人ノ勢力

獨逸ハ軍事の方面ニ於テ世界ニ卓越セルコトハ今更~~ニ~~言ヲ要セザルベシ而カモ平素カラ各方面ニ於テ外交的工作ニ注意ヲ怠ラザリシ實例ハ蘭印ニ於テモ亦證明スルコトヲ得ベシ

即チ本年五月十日獨軍ノ和蘭本國侵入ト同時ニ蘭印政府モ在任獨逸人ニ對シ時機ヲ失セズ強制處分ヲ斷行シタノデアアルガ其ノ際和蘭人ニシテ獨逸側ノ陰謀ニ參加シツツアリト認定シタル百六十餘名ヲ投獄シタルガ、獨逸ガ多年「スマトラ」ノ油田竝ニ農園等ニ對シ何等カ計畫シツツアリトノ運動ニ對シ注意ヲ怠ラザリシハ事實ラシク、獨逸本國ヨリ「ナチ」ノ指令ニ基キ入國セル黨員ハ各方面ノ事務勞働ニ勤務シツツ、和蘭人ヲ引入レル迄ニ結成シ居リタルモノノ如シ、若シ果シテ事實ナラバ、獨逸カ「スマトラ」ニ對シ利害ヲ有スル日本ヨリモ如何ニ關心ヲ持チ大膽ニ捨石ヲ打ちツツアツタカヲ證明シ得ルノデ日本ノ正直サヲ苦笑シ得ナイノデアアル

蘭印政府ハ和蘭本國ガ獨逸ニ占有セラレテ以來蘭印ニ於ケル獨逸人ノ財産處分ニ就テハ容赦ナク斷行シタル由、「バタビヤ」ニ於ケル不動産競賣ハ約四百件、「スラバヤ」ニテハ三百六十件、「スラバヤ」郊外ノ「スランガンホテル」ノ如キ原價四、五十萬「ギルター」ノ廣大ナル地域ヲ僅ニ一萬六千「ギルター」ニテ落札セシメタル等同情スベキ話ヲ聞タリ

一時ハ在住獨逸人ノ總數ハ日本人ト略ボ同數ニテ七千人ト算出セルガ蘭印ニ於ケル獨逸ノ勢力ハ日本人ヨリモ高級上層ノ方面ニ喰込ミ居リ、日本ガ資産信用充分ナル資本家ノ進出ニヨツテ事業經營ニ從事シツアルモノト異ナリ、其ノ多クハ知識勞働者ニアラザレバ、裸一貫カラ成功シタル事業家ナリ、而モ政治行政方面ニ迄參加シ得タルハ人種關係ニ於テ日本ト其ノ立場ヲ異ニスル所以ナリトス

左ニ蘭印ニ於ケル獨逸人ノ現状ヲ摘記スベシ  
一、在住者約三、〇〇〇人

内千八、九百人ハ成人男子残りハ婦人、子供各種ノ職業ニ従事ス

(例ヘバ政府役人、開業醫者、建築技師、商人、栽培事業者、土木技師、他ノ一般技師、「ホテル」經營竝ニソノ従業者、商店經營者等多岐ニ互ル)

獨逸人中政府役人トシテ働イテ居ツタモノハ一四五人デ主トシテ警察、郵便局、鐵道、醫學竝ニ地質學者等ナリ

一、政府高官ニ獨逸人ヲ採用シタコトハ昔カラ有名デアル、日本デ有名ナ *Kunze* 氏 *Siebold* 氏 *Rumpf* 氏 *Jung* 氏ノ如キ科學者モ蘭印政府デ高位ノ役人デアツタ尙又十七世紀カラ十八世紀ニカケテ四人ノ獨逸人ハ蘭印ノ總督デアツタ。十九世紀ニハ一獨逸人ハ陸軍ノ最高指揮官ノ地位ヲ與ヘラレ又ツイ最近迄陸軍デ相當高位ニ登ツタモノモ尠クナカッタ

獨逸人ハ商業使用人トシテ獨逸、和蘭兩商社ニ働イテ居リ又一方ニ於テハ獨逸商社ハ相當多數ノ和蘭人ヲ使用シテ居ツタ

一、主要商社（獨逸籍）

著名ノ輸入業者トシテ、「カール・シユリーパー」。「ベン  
マイヤ」。「レーデボア」。和蘭「シーメンス」會社ノ四商社

アリ

主要栽培會社

「ストリート・スندا・シンデカツト」。(會社ノ創立者デ  
アリ又同時ニ主席取締役ハ本年日本ヲ訪問シタ。「ヘルフェリ

ツヒ」氏デアル)

「マリハツト」栽培會社（蘭印主要栽培會社中ニ數ヘラレテ

キル

一、獨逸人創立ニカカル大商社（現在和蘭籍）

「エルドマン・シルゲン・ゲンツエル・シユーマツハ」。

オ・ウエリ（五大商社ノ一）。「ウエレンスタイン・クロ

ズ」。「モールマン」商會。「ウイリアム・ミユラー」。

ジヤング・レボン（「スマトラ」ニテ金鑽ヲ有ス）此等ノ所

有主又ハ組合員ハ既ニ和蘭人ニ轉籍シタノデアツテ獨逸トハ密

接ナ取引關係ヲ有シテ相當ノ範圍ニ於テ獨逸人ヲ僱ツテキルガ

獨逸商社ト分類スル事ハ出來ヌ

外務省

一 五月十日和蘭侵入後の獨逸人竝に其の權益

最近新聞紙上に表れた所によれば蘭印側に差押へられた資産は七千萬盾であつたが先づこの見當であらう。其の主なるものは農園で其の金額約二千萬盾と見積られこの外に蘭印港で拿捕された十八隻の商船である。この船は普通貨物船である、其の他差押物件中主なるものはバタビヤに於ける、アムチベル、ビール醸造所、スラバヤに於けるドレール石鹼工場、多數のホテル（ホテル、スラビンタナの如し）も含まれこの外に商品、事務所、個人の住宅等各種の物件あり（鑛山、銀行は皆無）

一 獨逸人に對する蘭印政府の待遇状態  
五月十日獨軍和蘭侵入と同時に十六才以上の總ての獨逸人は直に逮捕されたがこの計畫は明かに注意深く豫め用意されたもので無情にも一旦自分の家へ歸つて家族へ別れを告げ必要手廻品を取纏る事も許されず事務所や働き場所で捕へられて直にバ

タビヤ灣中にある一孤島に移され同島に最も元始的條件で數ヶ月留置された。現在ではスマトラ島中の遍「アラスバレイ」に收容場を建設してそこに皆收容された。領事館員は認可狀を所有してゐる少數者を除き他の一般獨逸人と同様逮捕監禁された總領事テーマン氏夫妻は認可狀保持者であつたから住宅に監禁され警察の嚴重なる監視の下に外部との交渉は一切許されなかつたとの事、九月の終りに至り漸くロンドンに於ける和蘭政府は双方領事館員の交換に同意するに至つた由

スマトラのアラスバレイに監禁されたものは船員を加へ二、四〇〇人でこの中に中部爪哇バンジュビルに於て概して著名獨逸人の妻一五〇人が監禁されてゐる、この婦人達は政治的危険人物であると云ふのであるが其の求刑に對し何等證據がないと云ふのであるが事實は勿論判らない、兩監禁場に於ける待遇は罪人扱で非常に過酷のものであると言ふのである。一例を掲げれ

2748-A(9)

ば著名の實業家であつたフロウスチユツク氏はたまたま間違つて收容場に囚らしてある鐵條網に近寄つて觸れた爲射殺されたと言ふのである婦人の方は爪哇土人の婦人囚人によつて織られた布で強制的に縋帶を作らされて居る由

獨逸人の財産は總て差押へられてゐるが夫人の請求により競賣處分に附せられたもの相當に多いとの事。獨逸の會社の商賣は和蘭人の管理人で行はれて居る、個人商社は閉鎖された、個人の資金竝に貴金屬、寶石、銀器等は沒收され一ヶ月五〇盾の小額手當が監禁されたものの家族に支給さるるのである。

十八隻の獨逸船（内一隻は船員が自沈した）デンマーク船二隻は政府によつて收容され終に英國政府に依つてチャーターされてゐる。

Exh 1318  
Doc 2748 A (10)

會商第三五號

一月二十七日

松岡外務大臣宛在「バタヴィア」芳澤代表來電

陸軍次官及參謀次長へ

原田發第八號

其ノ後蘭印ノ英米依存傾向ハ益々濃厚ニシテ地中海  
方面伊太利軍ノ敗勢及米國ノ對英援助乃至對日強硬  
論ハ蘭印ノ氣ヲ良クセシメ客觀的情勢ハ蘭印ニ有利  
ニ展開シツツアリト樂觀シ居レリ尙國內防備ノ強化  
進展ハ蘭印ノ自信ヲ強メ折クテ帝國ノ東亞共榮國等  
ハ頭ヨリ否定スルノミナラス却テ暴毎反撥ノ氣勢ヲ  
示シ居レリ倭テ帝國ニシテ重大決意乃至工作ヲ爲ス  
ニアラサレハ日蘭會商ノ進捗ハ素ヨリ日蘭關係ノ打  
斷ハ至難ナリト觀察セラレ

詳細ハ近ク歸朝ノ中山中佐ヲシテ御報告セシムヘシ



24-1318

Commercial Negotiation #35

January 27th

Despatched from Delegate YOSHIKAWA in BATAVIA to  
Foreign Minister MATSUOKA

Attention: The Vice-Minister of War and the Vice-Chief  
of the General Staff.

HARADA's Despatch No. 8

Since then, the tendency of the NETHERLAND EAST INDIES to rely on GREAT BRITAIN and the UNITED STATES has been increasing more and more. The defeat of the ITALIAN Army in the Mediterranean theatre, and AMERICAN aid to GREAT BRITAIN and her firm attitude towards JAPAN have encouraged the NETHERLAND EAST INDIES. She is taking the optimistic viewpoint that the objective situation is developing favorably for the NETHERLAND EAST INDIES. Furthermore, the strengthening and development of her home defences have intensified the self-confidence of the NETHERLAND EAST INDIES. Thus, not only is she completely disregarding the Empire's East Asia Co-Prosperity Sphere, but she is further expressing her spirit of opposition on every matter. Therefore it can be considered that unless our Empire adopts determined resolutions or measures not only the progress of the Japanese-Netherland negotiations, but also the development of Japanese-Netherland relation would be extremely difficult.

As to the details, Lt. Col. NAKAYAMA who is returning to JAPAN shortly shall make a report.

Ex 1302

Doc 2748-A<sup>(11)</sup>

発電第五五四號 昭和十六年一月二十八日 後七時

松岡外務大臣発在「バターグリア」芽沢代表宛電報寫

芽沢代表「スタートシート」ニ関スル件

略會商第五號極秘大至急

貴電會商第三三號ニ関シ

申込迄モテキ儀乍ラ外部ニ発表ノ場合大東亞共

栄園ニ対スル我指導權ヲ否定スルカ如キ用語ハ絶

對使用セサル様御留意相成度ニ

Doc. No. 274<sup>8</sup>A(11)

Ex 1302

Page 1

Telegram No. 2524

January 28, 1941 7:00 P.M.

A copy of a telegram from Foreign Minister MATSUOKA to  
Delegate YOSHIZAWA in BATAVIA.

Concerning Delegate YOSHIZAWA's Statement

Cipher Commercial Negotiation No. 24. Strictly Secret.

Very Urgent.

Concerning your telegram, Commercial Negotiation No. 33.

It goes without saying that you should absolutely refrain  
from the usage of such expressions that would deny

Japan's hegemony within the Greater East Asia Co-Prosperity

Sphere when announcing to outsiders.

IMT 505

142

Ex 1320

Doc 2748 A (12)

總第一〇七三號 暗 昭和十六年三月二十五日午後一時南一

在ハスワキア 等 筆 代表

江衛外務大臣

會商第六八號 館長符號扱

貴電會商第一二三號ニ関シ

入國企業等ノ問題ニ付今何等カノ妥結ヲ図ルトセハ貴電第一  
 一二五號ノ如キモノヨリ外無カルヘシトノ貴見ハ尤モナルモ御承  
 知ノ通り本件交渉ハ我朝野ノ重大関心事ニシテ此ノ際交渉  
 涉ヲ有耶無耶ニ終ラシムンカ内國民ノ我外交ニ対スル信賴  
 ヲ喪ハシメ外敵性國家ニ対シ日本與シ易シトノ印象ヲ與  
 (其ノ侮蔑壓迫ヲ助長シ内外與フル政治的影響甚大ナリ。  
 確實ナル情報ニ依レハ蘭側ハ貴代表ノ滞在ヲ煙クカリ日本  
 情勢轉換ヲ俟テ強硬態度ニ轉レ為 依線的ノ存在「春做ス  
 一方交渉ハ双方ニ取り單ニ時間ノ空費ニ過マストノ極メテ冷淡ナル  
 態度ニエテ特ニ代表部ノ協調的態度ニ表面満足ヲ裝ヒ乍  
 之ヲ以テ日本ノ軟化ト解シ氣ヲ長クシ居ル形跡アリ  
 然レトモ松岡外相渡歐後ノ形勢ノ變化及米國側ノ氣ヲ引  
 キタル後近ク貴地ニ渡ルヘキ外相及植民相親日的人物ノ意  
 趣モ「其」甚ク御注意アリ。暫ク我手書原案ヲ執拗ニ「アツシユ  
 スルト共ニ重點ニ物資獲得ニ移行シ情勢ノ推移ヲ待ツコト  
 致度シ(早例トモ協議済)

追テ當今代表部ヲ存續スルコト絶対ニ必要ナル事情アルニ  
 付交渉ノ進行ニ當リ代表部遣出シ、蘭側策謀ニ乗セラ  
 レサル様御配慮アリタシ

ex 1321

Doc 2748-A(13)

發電第一九一三四號

昭和十六年五月二十三日午後九時三十分松岡大臣發

在「バタヴィア」茅沢代表在英會光大使在米野

村大使宛電報寫

蘭印交涉促進方ニ関スル件

暗合第一二七號至急

「日ノレキ」大使ヲ招致本大臣ヨリ日蘭印交渉ハ我方ノ非常ナル全面  
的讓歩ニ依リ雙方ノ主張以前此ニ接近シタルガ唯護謨及錫ニ関  
シテハ困難アリ客年六月蘭側ハ護謨ニ萬担、錫三千担ハ如何ナル  
事態ニ於テモ對日供給スベシト確約セルガ我方ハ其ノ數量迄ノ讓歩  
ヲナシタルニ拘ラズ蘭印側ハ佛印及「タイ」ノ對日供給量ト睨ミ合セタルニ  
更ニ右數量ヨリ減額スルコトアルベシト主張シ居ル處我方ノ護謨及錫  
需要増加セルヲ忘ルベカラズ。

日本ガ獨逸ニ對シ護謨ヲ供給スルノ虞アリト云ハルモ我方ガ蘭印ニ對シ  
テ要求スルニ萬担ヲ佛印「タイ」等ヨリ輸入ヲ豫想スルニ他數ト併ハスモ我  
方ノ必要トスル全數量ヲ遙ニ下廻ル次第ニシテ世界何レノ國ガ自分ノ内ヲ切  
リテ他國ニ與フルモノアリヤ又弱少蘭印ガ對獨再輸出ヲ為サル保障ヲ  
我方ニ要求スルガ如キハ蘭印ノ增長ヲホスモノニシテ大國ノ日本ニ對シ「エミ  
リエー」ナリ我方ハ斷シテ斯ル保障ハ與ヘ得ズ萬一交渉決裂シ茅澤代表  
引揚ゲトモナラバ外交上ハ勿論國內的ニモ甚大慮スベキ事態ニ起ルコト無キ  
ヲ保セズ抗蘭延キハ排英米熱ヲ煽ラルニ至ルベク最早本大臣ニ於テ從  
末ノ如ク之ヲ阻止シ得サルヤモ知ルカズ依テ大至急和蘭及蘭印政府ヲ反省セシムル為貴  
國壓カヲ用キラルル様貴使「グッド・オフィス」ヲ煩ハシ度ク至急本國政府ニ電報セラレ  
度ト申入レタルニ大使ハ貴會ニ副極早速電報努カスベシト答ヘタリ

本電宛先

茅澤代表、英、米

Ex 1321  
Dispatched Telegram No. 19134:

Copy of Telegram. Dispatched by Minister MATSUCKA at 9:30 p.m., on  
May 23, 1941 /Chowa 16/

To Delegate YOSHIZAWA in Batavia,  
Ambassador SHIGEMITSU in Great Britain, and  
Ambassador NOMURA in the United States.

Re: Acceleration of Negotiations with Dutch Indies.

Code "Go" No. 1117, Urgent:

On 22nd I invited Ambassador CRAIGIE and told him that the negotiations with the Dutch Indies, through the extreme wholesale concession on our side, had reached a rapprochement when compared with the former contentions of both sides, but that there still remained some difficulty about rubber and tin. In June last year, the Dutch Government assured us that, whatever the situation might be, the Government would supply Japan with 20,000 tons of rubber and 3,000 tons of tin, and despite the fact that we conceded to the said quantities, the Dutch Indies Government, taking the quantities of rubber and tin exported by French Indo-China and Thailand to Japan into consideration, now asserts that the quantities mentioned above would be still further deducted, but it must be borne in mind that the demand for rubber and tin in our country had become increased. I also explained that, although it is claimed that there is the danger of Japan's supplying Germany with rubber, even by adding the quantity of rubber expected to be imported from French Indo-China and Thailand to the 20,000 tons of rubber which we have demanded of the Dutch Indies, it would still be far below the total quantity required by us. What country is there in the world that would give its own flesh to another country by even going to the extent of cutting its own. Furthermore, it merely shows the presumptuousness of the Dutch Indies at the same time constituting an act of humiliation to Japan, who is a great power, to have a small nation like the Dutch Indies demand of us an assurance that Japan will not re-export to Germany. We could never give such an assurance. Should the negotiations, by chance, end in rupture and lead to Delegate YOSHIZAWA's withdrawal, there is no vouching as regards what a grave situation may arise not only diplomatically, but also internally, thereby inciting not only the anti-Dutch, but also anti-British and anti-American sentiment to such a degree that this Minister may no longer be able to check same as was done in the past.

Therefore, I asked the Ambassador /TN: CRAIGIE/ to render his good offices in having his country bear pressure upon the Dutch and Dutch Indies Government with all possible dispatch so as to make them reconsider

matters, also requesting him to promptly cable to his Home Government, to which the Ambassador replied by saying that he would comply with my request by trying to dispatch a telegram at once.

Destination of this telegram:

Delegate YOSHIZAWA, Great Britain and the United States.

INT 505

147

1322

昭和一六 一五五九三 暗

バタヴィア 六月七日後發

本省 八日前着

松岡外務大臣

芳沢代志

會商第二二七号(稅)(館長符号板外機密)

往電第二二二号ニ関シ

2748A(14)

一右ニテ傳承知ノ通り蘭側回答ハ我ラノ希望ヲ若干容シタル莫  
 アレトモ入國企業通商ノ問題ニ亘リ迄方從來ノ主張ヲ固持スル  
 所鮮カヲサルノミナラス差当リ政府ニ於テ最モ重キヲ置カルル  
 物資問題ニ付テハ護護錫ハ勿論其他ノ重要物資ニ付テ  
 (不明)ニ南スル蘭側條件ヨ飽達固執スルト共ニ其ノ數  
 量ニ付テモ今日迄ノ蘭側内示量ヨリモ寧ロ之ヲ減シ居リ  
 從テ蘭側回答ヲ其ノ儘受諾スルコトハ貴大臣及次官ヨリ英  
 大使及和蘭公使ニ對シ強硬ナル申入アリ又情報部及新聞  
 ニ於テ積極的「プレスキャンペーン」ヲ行ヒタル今日ニ於テハ到底  
 不可能ト思考ス左リトテ此ノ期ニ及ニテ我ラヨリ蘭側ノ讓歩  
 ヲ要求シ論議ヲ進ナントスルモ蘭側今次回答ハ總會ニ於  
 テ特ニ慎重ヲ期シテ印度評議會ニ諮向シタル上累次「モ  
 』招キテ自ら検討ヲ加ヘタルノミナラス在倫敦和蘭政府ノ裁  
 決ヲモ絡タルモノニシテ蘭側トシテ、此ノ上論議スルコトヲ欲セズト  
 ノ嚴然タル態度ヲ表示シ居ルコトモアリ最早受付ケタルコト  
 明瞭ナリ位ニ我ラトシテハ執ルヘキ態度ハ蘭側回答ヲ不満足  
 ナリトシテ會商決裂ヲ聲明シタル上代表部ヲ引揚グル外ナシト  
 思考セラル、慮右ノ場合ハ我政府トシテモ國民ニ對スルナリ前  
 モアリ強硬態度ヲ示サル、ヲ得サルコト、ナリ言論界ハ極端ナ



2748A(14)

此言辭ヲ以テ蘭創ノ非ヲ鳴ラスト明白ナリ然ルニ既ニ今日迄ノ  
 経緯ニ依リ證明荷ノ通り蘭創ハ斯ル威嚇的「セスナコナー」  
 ニ依リ決ヒテ回ムモノニマラス却テハ新規石油「コンセツション」  
 切許サス回来ル十一月ノ賣油契約更新ニ対シテハ「モウラニナボー」  
 ヲ支ヘスル石油以外ノ物資ニ付テモ一切ノ約束ヲ受ケン其ノ供支  
 ヲ益々強クトナスヘシト「コッラ」及「バー」油ノ直ニ一萬二千噸ヲ  
 六六。噸ニ逆戻リセシメ日本人農園及業者ノ生産品ヲ「ス  
 ト」ノ対日輸出ヲ不可能ナラシムヘシト(因テ蘭南業ヲ許サ  
 サルハ勿論入国制限ヲ更ニ強化スヘシト)日本品輸入豫告ヲ十  
 サスル諸種ノ方法ヲ以テ在留民ノ營業及生活ニ対スル圧迫  
 ヲ強化スヘシト(英米依存態度ヲ一層露骨ニ強化スヘシト)  
 從テ決裂後ノ事態ハ頗ル重大トナリヘキヲ覚悟セサルハカラヌ一  
 代表部ノ滞在ヲ引キ止ムル迄延滞セシムルカ如キハ中外ニ対  
 スル我々面目前面白カラサルニナラス右様ノ場合ハ蘭創ヨリ代表  
 部引揚ヲ要求シ来ルヘク右ノ為餘儀ナク引揚クルカ如キコト  
 トモナラハ帝國ノ威信ハ地ニ墜ツルコトトモナルヘキニ付慎重情勢  
 慮ノ上本使ノ執ルヘキ態度ニ付何分ノ儀ニ速テ回電相煩  
 唐シ尙本使ハ出来得ヘクハ本月二十日後ノ最近便ニテ歸朝致  
 ス積リニ付了了承リ請フ

2.

Doc. No. 2748A(14)

Page 1

No. 14 /T.N. In Chinese Ink/

1941 /Showa 16/ 15593 (cipher telegram)

Despatched from BATAVIA - June 7, P.M.

Received at this /T.N. Foreign/ Office - June 8, A.M.

From Delegate YOSHIZAWA to Foreign Minister MATSUOKA

Parley No. 227 (omission) (per Embassy's code, Foreign -

Top Secret)

Referring to Outgoing Cable No. 222

1. Although, as you will be able to observe from the foregoing cable, the DUTCH reply shows that there are some points where they have agreed to our wishes, nevertheless the prospects are not very bright in regard to problems such as entry into the country, enterprises and commerce due to their adhering to their former contentions; in addition to which, in regard to the question of resources, such as rubber and tin, as well as regarding (not clear) among other important commodities to which the government /T.N. JAPANESE/ attaches the greatest importance at present, they /T.N. the DUTCH/ are stubbornly persisting in their conditions. Moreover, they /T.N. the DUTCH/ have in fact at the same time decreased the quantities compared with the informal figures submitted hitherto by them /T.N. the DUTCH authorities/.

Now that Your Excellency and the Vice-Minister have lodged a strong protest against the BRITISH Ambassador and the DUTCH Minister, and the Publicity Department as well as the newspapers have been carrying out an active press campaign, it is absolutely impossible to accept the DUTCH reply just as it is.

Even if we should, at this juncture, demand the concession of the DUTCH and try to continue on with the negotiations, inasmuch as the DUTCH reply I have just received was, in addition to having met with the special consideration of the Plenary Session by studying same themselves repeatedly by inviting "MO" after having submitted same to the INDIAN Council for deliberation, also approved of by the DUTCH government in LONDON, it is evident that they would no longer accept any such demand in view of the DUTCH side manifesting a firm attitude as regards their unwillingness to discuss matters any further.

INT 506

150

Consequently, although it is considered that the only option left as regards the attitude to be adopted by us would be to have our Delegation leave after announcing the rupture of the Parley, on the ground that the DUTCH reply was unsatisfactory, in such a case it is evident that, out of respect towards its people, the JAPANESE government would have to assume a strong attitude towards the DUTCH, and the press would denounce the DUTCH attitude in a vehement tone.

However, as has been duly proved by what has occurred in the past, the DUTCH would by no means yield to such a threatening gesture. On the contrary,

- (a) No new petroleum concessions whatsoever would be sanctioned.
- (b) No "moral support" would be given towards the renewal of the contract re sale of oil next November.
- (c) No promise whatsoever would be given also on materials other than, petroleum and the supply thereof would be more and more restricted.
- (d) Copra and palm oil would be set back to 12.000 kilo tons and 960 tons respectively, and it would be made impossible for the JAPANESE farms and merchants to export their products and stocks to JAPAN.
- (e) JAPANESE doctors would, obviously, be prohibited from establishing their practice, and the restrictions regarding entry into the country would be still further strengthened.
- (f) No advance notice would be given regarding the importation of JAPANESE goods.
- (g) Various methods would be resorted to in order to increase the pressure upon the business and living of the JAPANESE residents.
- (h) The attitude of dependence on GREAT BRITAIN and the UNITED STATES would be strengthened in a still more outspoken manner.

We must consequently be prepared for the fact that the situation after the rupture would become very grave. Not only would it be unfavourable from the standpoint of our prestige at home and abroad to attempt any measures for prolonging the stay of our Delegation, but as, in such a case, the DUTCH authorities would most probably demand

the withdrawal of the Delegation, and as the EMPIRE's prestige would become completely lost in the event of the Delegation being thereby forced to leave, please, after giving the matter your careful and due consideration, send me your urgent telegraphic reply as regards the attitude that I should assume.

Moreover, please note that, if possible, I intend to return to JAPAN by the first available opportunity after the 20th inst.

發電第二二九六號

昭和十六年六月十四日午後八時十五分松岡外務大臣發

在「ヨバダグイ」芳澤代表宛電報寫

蘭印交渉打切ニ関スル件

(暗)第一四號互志(館長符號報)

貴電會商第二二七號ニ関シ

今回、蘭側回答ハ不当ニシテ、應諾、限リニ非ザルノミナラズ右回答ヲ基礎トシテ交渉ヲ繼續スルトモ無意味ナルニ付政府ハ此際、貴見通り會商ヲ打切り貴代表及ビ代表部全員ノ引揚ケヲ行フコトニ決定セリ付、左記諸點御合シ、上善處相成度。

Ex 1323

Doc 2748A(15)

一、手續上慎重ヲ期スル為、貴代表ニ於テハ、一應總督ト會見セラレ、我々最後案ハ若シ之ヲ發表スルトキ輿論ノ攻撃ニ遭ヒ、内閣ハ極々困難ナル立場ニ陥ルヘキモ、日蘭印關係ヲ顧念シ、難キヲ忍ヒテ讓歩シタル次第ナリト説明セシ大局的見地ヨリ、其ノ猛省ヲ促シ、總督ニ於テ再考ノ余地ナキ旨言明シタル場合ハ直ニ會商打切、代表引揚ヲ通告セラレタリ。

二、日蘭印間一般通商經濟關係ハ從來通保持セルベキモノナリト點ヲ明確ナシテ、ムルコトヲ希望スルモ先テニ對シ積極的ニ、斯ル申出ヲ為スコトノ可否ハ、貴代表、御裁量ニ任スベシ。

三、若シ先テニ於テ希望スルナラバ引續キ石沢總領事ヲシテ詰合ヲ續行セシムルコトルベキ日ヲ明カニセラレ度久從テ此際、日蘭印關係ガ決裂シタルガ如キ形ハ之ヲ避ケルモ代表部トシテハ、會商ヲ打切り引揚ケルモノト明カニセラレ度シ。

四、當テニ於テハ外部ニ對シ同様ノ趣旨ニ依リ全然決裂セルガ如キ印象ヲ與フルコトハ努メテ避ケ輿論ノ激化ヲ防ク方針ナルニ付、貴代表部ニ於テモ同一歩調ニ依テラレ度ク我々決定、當地ニ於テ發表貴代表、會商打切通告直後ト致度ニ付、平又ニ「通告書」ト電報アリ度シ、尚發表ノ形式ハ會商打切ニ關スル簡單ナル情報局發表(要領別電會商第一四六號)ニ石井部長談(要領別電會商第一四四號)ヲ附加スル豫定ナリ貴代表引揚、際ニ於ケル發表之ト符合セシム様御配慮アリ度シ。  
五、代表部引揚、時期ハ貴代表ニ御一任ス、但シ石油關係者ハ代表部ト引キ離シ引續キ居残リ交渉ヲ繼續シ得ル様御配慮ヲ乞フ。

Ex 1323

Telegram No. 22296

Copy of the Telegram despatched to Delegate YOSHIZAWA at Batavia by Foreign Minister MATSUOKA, at 8.15 p.m., 14 June 1941.

Subject: Breaking off of negotiations with the Netherlands Indies.

(Cipher) Urgent No. 147 (Handled in same manner as director's code)

In connection with your telegram "conference" No. 227: the reply of the Netherland Indies this time is so unwarrantable that it is not only beyond our acceptance, but it is also meaningless for us to continue the negotiation on the basis of their reply. Therefore, the Government in accordance with your opinion has decided to break off the conference and to withdraw you, the delegate, and your whole staffs. It is requested that you make the best of the situation bearing the following points in mind:

1) In order to take a cautious procedure, you will meet with the Governor-General at any rate to explain that we have made concessions to an intolerable extent in consideration for the future relations between Japan and the Netherland Indies though anticipating that our Cabinet will be attacked by public opinion and find itself in a very difficult position if we publish our last proposal, and you will urge him to seriously reconsider his attitude from the general standpoint. If the Governor-General declares that there is no room for reconsideration, you will immediately notify him of the breaking off of the conference and of the withdrawal of your delegation.

2) It is desirable to make it clear that general commercial and economic relations between Japan and the Netherland Indies should be maintained as before, but whether such a positive proposal should be made or not will be left to your discretion.

3) You will make it clear that if they wish, Consul-General ISHIZAWA may continue the negotiations. Therefore, you will make it clear that although the delegation will avoid giving the impression that the relations between Japan and the Netherland Indies have been ruptured, your delegation will withdraw upon the break-up of the present conference.

4) With the same spirit, it is our policy to avoid as much as possible giving the impression abroad of a complete rupture, thus we may prevent exciting public opinion. Therefore it is requested that your delegation keep in touch with us, and as we want the announcement of our decision to be made immediately after your notification to them of the breaking off of the conference, it is requested that you despatch

an ordinary telegram telling us you "have notified" them. As for the form of announcement it is planned that a simple statement be made by the Information Bureau (the gist to be seen in the telegram "conference" No. 146) in regard to the breaking off of the conference, with the addition of a talk by ISHII, the chief of the Section (the gist to be seen in the Telegram "Conference" No. 144). We hope the announcement you will make on your departure will be arranged to be in accordance with the Government's announcement.

5) The date of the withdrawal of your delegation will be left to your discretion but it is requested that you make arrangements so that the parties concerned with petroleum can separate from your delegation and remain to continue the negotiations.

2748-A(16)

NO. 16

昭和16 一六五四八 (暗)

本 省 六月十五日發  
十六日前着

松岡外務大臣

芳澤代表

會商第二三七號(大至急、館長符號扱)

貴電會商第一四七號ニ關シ

今回ノ御訓令ハ種々ノ意味ニ於テ非常ニ重大ニ之アリ從テ本使ノ  
腑ニ落チサルニ、三ノ點ニ付御意見承知致度シ即チ左記ニ關シ何  
分ノ儀大至急御回電請フ

一、總督ノ反省ヲ促スニ當リ「我方最後案ヲ發表スルトキハ輿論  
ノ攻撃ニ遭ヒ内閣ハ極メテ困難ナル立場ニ陷ルヘキモ」ノ文句  
ハ誰々ノ内閣ヲ相手トセス日本政府ヲ相手トシテ考ヘ居ル側  
ニ執リ何等意味ナキノミナラス我國内政事情ノ窮狀ヲ訴ヘテ關  
側ニ哀訴スルカ如キ結果トナリ日本帝國ノ威嚴ニ關スル俱アル  
ヤニモ存セララルニ付本使トシテハ右文句ハ之ヲ用ヒサルコト

外務省



ト致度シ

二、日蘭印側ノ通常ナル一般經濟關係保持ニ付テハ蘭側回答中通商貿易關係前文末尾及二、末段ニ於テ之ニ言及シ居ルコトニモアリ又會商打切り後ニ於ケル在留邦人七千ノ動搖ヲ阻止スル目的ヨリ考フルモ本使ヨリ積極的ニ申入レ出來得レハ共同「コム」ミユニケ「中」ニ其ノ趣旨ヲ折衷ム様蘭側説得ニ努力スル積ニ付御含ミ請フ

三、石澤總領事ヲシテ話合ヲ續行セシムルコトアルヘキ旨ヲ申入ルルコトハ我方カ會商打切りニ依リ毅然タル態度ヲ表明セントシ乍ラ他面未練ヲ殘ヌモノトノ印象ヲ與ヘ帝國ノ威信上面目カラスト思考セラルルノミナラス前記ノ如キ申入ハ行ハストモ打切り後ニ起ルヘキ諸種ノ問題ニ關シテハ總領事ニ於テ當然話合ヲ爲シ得ル筋合ナルニ付本件申入ハ爲ササルコトト致度シ

四、會商打切ト決裂トノ差異ハ何處ニ在リヤ承知致度シ本使トシ

2748-A(16)

テハ會商ノ打切ヲ通告スルコトハ即チ會商ノ決裂ヲ意味スルモ  
ノト了解スル外ナク又貴電會商第一四六號發表文ハ何人カ見ル  
モ會商決裂ト解釋スル外ナカルヘキ處此ノ點ニ關シ更ニ明確ナ  
ル政府ノ御意嚮竝ニ打切ト決裂ノ英語併セテ御回電相煩度  
五、石油關係ノ問題モ一般會商ノ一部ナルコトハ今更申上クル迄  
モナキ次第ナルニ拘ラス石油關係者ノミ居残り交渉ヲ繼續セシ  
ムルコトハ到底不可能ニテ石ハ本使ニ於テ努力スルモ蘭側ニ於  
テ承諾セサルコトハ理論上ヨリ言フモ又感情上ヨリ言フモ明白  
ナルニ付御含ミヲ請フ（了）

外  
務  
省

2748-A(17)

NO. 17

發電第二二四一八號

昭和十六年六月十六日午後八時松岡外務大臣發  
在「バタヴィア」芳澤代表宛電報寫

會商打切ニ關スル措置振ノ件

(暗)第一五〇號

貴電會商第二三七號ニ關シ

一、同電一、ノ點ハ如何ニ我方カ難キヲ忍ビ、斯ル「リスクス」  
ヲ執リテ圓滿安結ヲ圖リ居ルカニ付先方ヲ「コンヴィンス」セ  
シムル爲メニシテ、關側ガ我方最後案ヲ容レザレバ內閣ノ立場  
困難トナルベシトテ訴フルガ如キ趣旨ニハ非ザルニ付右御含ミ  
ノ上然ルベキ言廻ハシヲセラレ度シ

二、同電二、ハ御來示ノ通措置セラレ度シ

三、同電三、及四、ニ付テハ關側回答ガ協定ノ基礎トシテ取上ゲ  
得ザルモノナル以上會商ハ打切りノ外無キモ、帝國政府トシテ

外務省

IMT 505

159

ハ右ニ因リ日蘭印間ノ一般關係カ忽チ破局ニ瀕シ<sup>白蘭印ニ</sup>干戈ニ訴フル  
ノ已ム無キ事態カ現出セルガ如キ印象ヲ内外ニ與フルヲ避クル  
爲、穩カニ會商ヲ打切り、代表部ヲ引揚ゲ、以テ我國民ヲ昂奮  
セシムルガ如キ情勢ヲ誘致セシメザラントスルニ在リ從テ用語  
モ *have decided to discontinue* トセラレ度ク、*rupture* 又ハ夫レ  
以上ノ辭句ハ御使用相成ラザル様致度シ、又「石澤總領事ヲシ  
テ話合ヲ續行セシムルコト」云々ノ點ハ右ノ如ク日蘭印間通常  
ノ經濟關係ハ維持セラルルモノナリトノ見地ヨリ、會商ノ議題  
トナレル事項ニ付テモ今後必要ニ應ジ隨時同總領事ヲシテ交渉  
ニ當ラシムルノ用意アリトノ趣旨ヲ口頭ニテ輕ク表示セラレ度  
シトノ意味ニテ、我方カ猶會商ニ未練ヲ殘シ居ルガ如キ印象ヲ  
先方ニ與フルハ本意ニ非ザルニ付此ノ邊ノ言ヒ廻シハ貴代表ニ  
御仕カセス

四、石油關係者ノ殘留ハ前記三ノ趣旨ヨリ關係廳ニ於テ特ニ強ク

2748-A(17)

希望シ居ルニ付出來得ル限り御斡旋相煩ハシ度シ  
要之、通常ノ經濟關係ハ之ヲ保持スルノ見地ヨリ個々ノ問題ニ  
付テハ今後モ折衝スルノ要アル次第ナルニ付右趣旨ヲ以テ可然  
蘭側ニ對シ御應酬相成様御配慮ヲ乞フ

外  
務  
省

Ex 1314

Doc 2748A(18)

二九四四九 晴 昭和十五年九月三日後九時四十分發 通六

在「バクワイア」齋藤總領事 松岡外務大臣

南印産石油買付方ニ関スル件  
第三九六號

往電第三八五號ニ関シ

燃料局長官ヨリ向井へ

一 買油交渉ハ冒頭往電通當方ニテ安易施スルコトシ現地交渉ハ  
當方ノ指示ニ依ルコトスル方針ナリ

二 貴下ノ交渉中ハ「ブローカー」ニ対シ統一ヲ乱ササル様夫々本  
社ニ申聞テ置タルニ付貴下ニ於テモ右御旨ニテ可然御指導  
相成度

三 石油鑛区獲得ニ重點ヲ置キ其交渉ハ原則トシテ南印政  
府ト直接交渉セラルヘキモノナル處英米ノ妨害的策動ヲ  
嚴密警戒相成度又南印側ニ於テハ我方ノ主眼トスル鑛区  
獲得ヲ拒否センガ爲態ト買油ニ重キヲ置カントスル策ニ出  
ツルコトナキヲ保ヤサルニ付豫メ鑛区獲得ト買油トヲ明確互列  
シ置カレ度

四 「カリオラ」第七號試掘成功シ日産自噴セキ也

五 本電ハ軍務局長ヨリトシテ中心助少佐ニ御傳請ナリ

IMT 505

162

DOC. 2748-A (18)

Ex 1314

Code No. 29449 Dispatched 1940, September 3 at 9:40 p.m.  
(By order of) Foreign Minister MATSUOKA.

To: Consul-General SAITO at BATAVIA. No. 396

Concerning the purchase of Netherlands India Oil Production  
In connection with Reply Telegram No. 385.

From: the Chief of the Fuel Control Board to MUKAI

- 1st) As it was stated in the reply telegram mentioned above, the negotiations concerned with the purchase of the Oil should be done by us, but intention is that the on-the-spot negotiations be carried out in accordance with our instructions.
- 2nd) We have instructed all the home offices to tell their brokers not to disturb unity during your negotiations. Therefore please guide them in accordance with this.
- 3rd) You must emphasize the acquisition of the Oilfields, and such negotiations, as a general rule, should be carried out with Netherland Indian Government directly. Strictly observe all hindrance attempts by Britain and America. We can not guarantee that the Netherlands Indies will not lay stress on the oil purchase intentionally in order to refuse our acquisition of oil fields which is our main purpose. Therefore, it is desirable that you clearly distinguish from the start the acquisition of oil fields and the purchase of oil.
- 4th) Experimental boring of Oil well No. 7 at KARIOLAN is successful, and daily production is 7 KILO.
- 5th) Please convey the contents of this telegram to Major NAKASUJI as it is (also) from the Chief of the Bureau of Military Affairs.

INT 505

163

Ex 1315

Doc 2 ~~784~~-A(19)

昭和15年八月三十一日(暗) バタヴィア 九月十八日發 改

本省 十九日前着 通

松岡外務大臣  
會商第二號ノ一

小杯代表

日本ニ於テ此ノ際是非蘭印石油三百十五噸ノ買付ヲ必  
要トシ而モ東京ニ於ケル交渉ニシテ行場ノ状態ニ於テハ右  
交渉ヲ當地ニ於テ向付ラシテ行ハシムルコトト致度キ何  
カノ儀折返シ御回電ヲ請フ

或ハ當地ニ於ケル交渉ハ石油企業問題ニ影響スヘキヲ恐  
レラルルヤモ知レサルカ右危懼ハ買油交渉カ東京又ハ貴  
地何レニ於ケルヲ問ハス全然同一ナルノミナラス當方トシテ寧  
ロ斯ル危懼ヲ抱キ居ラサル次第ナリ

尚假ニ三百噸余ノ買付交渉不成立ノ場合東京ニ於テ  
ル失敗ハ單ニ商談不成立ニ止マルヘク何等政治的  
反響ヲ伴ハサル次第ニテ此ノ際急ニ東京ニ於テ石油  
問題ヲ提議シタルハ右ノ點ヲ考慮シ先手ニ於テ先手  
ヲ打テタルモノトモ思考セラル

然ルニ當地ニ於ケル場合ハ交渉不成立ニ依ル結果ニ  
付テ日本ノ石油問題ニ関スル現情ニ鑑ミ世界輿論ハ  
交渉不成立ノ蘭印側ノ道德的責任ヲ問フコト  
モナルヘク蘭印側ニ於テモ右ヲ考慮シ成立方ニ付努  
カスルニ至ルモノト觀測セラル

又石油企業問題交渉ニ當リ右買油不成功ノ場合  
ハ是ヲ利用シ企業問題ニ付蘭印側ヲ圧迫スルコトモ  
可能ナルヘク更ニ蘭印政府ニシテ買油問題ニ直接関  
係スルコトハ買油ヲ理由ニ蘭印石油會社ノ株ヲ我々ニ  
賣渡サシムル工作ニモ利用ニ得ヘシ

現在ノ我々事情ヨリ判断スルニ買油確保ハ多少ノ價值  
ノ問題ヲ云々スヘキ時期ニアラサルヘキニ付向付ラシテ當  
地ニ於テ日本石油關係業者ノ利權ヲ一元的ニ代表シ  
交渉セシムルコト却テ有利ナルヘシ

No 1



No. 2

Doc 2748-A (19)

但ニ東京交渉ヲ當地ニ移ス場合多少時間的損  
失アルヘキコト豫想セラレルモ東京ニ於ケル交渉ノ當地  
政府ノ指図ニ依リ遷延策ニ出テ居ルヘキニ想到ス時  
右時間的損失モ莫ニ損失ニアラサルヘキト思考ス  
以上ノ理由ニ依リ東京交渉ニシテ現在行惱ミノ狀  
態ニアルニ於テハ當地ニ移シテキ希望ナリ  
本件ハ當地出張中ノ陸海軍向井其ノ他関係者  
モ積極的贊意ヲ表シ居レリ(了)

Ex 1016

Doc. No. 2748A (20)

page 1

No. 20

1940 /Showa 15/ 32206 (cipher)

BATAVIA to FOREIGN OFFICE

Dispatched: 25 Oct. PM

Received: 25 Oct. Night

"TSU" - "0"

From: Delegate SAITO

TO : Foreign Minister MATSUOKA

Commercial Negotiation No. 100  
From SAITO and OTA

Referring to our Telegram No. 96 (from MUKAI to Chief of Fuel Affairs Bureau) We think that although from the standpoint of an industrialist, it is most reasonable, it is necessary that further consideration be given on this matter from the strategical standpoint.

Namely, From the entire submission of application for prospecting in connection with their indicated areas, as well as from the numbers of our technical experts, we presume that we will all the more arouse their suspicion, but on our part we think it necessary that we carry on investigation in regard to all the areas and have a great number of planes and plain clothes /TN: BEN-I/ troops enter into these areas, thereby enabling it to become some sort of strategical base from the point of view of military operations against the DUTCH. For this reason, unless the vast investigation area is secured, the foregoing program will seem a flimsy excuse to the DUTCH, and in view of the difference being only from 150 to 200 thousand guilders, we deem it necessary that the prospecting rights at least be acquired over the whole areas proposed by them. Therefore, please guide the respective offices concerned keeping the above in mind.

For instance, even when we are to decide on obtaining the prospecting and mining rights for two or three districts in each area as suggested in the MUKAI plan, it is our desire that our strategical standpoint be given consideration in the selection of those districts and guidance be given accordingly. (end)

FILE COPY

INT 505

168

Ex 1016

Doc 2748A (20)

昭和15 三二二〇六 (暗)

パタヴィア 十月二十五日發 通  
本省 二十五日夜着 歐

松岡外務大臣 齋藤代表

會商第一〇〇號  
齋藤、太田ヨリ

往電第九六號(向井ヨリ燃料局長官宛)ニ關シ  
企業家ノ立場ヨリセハ至極尤モト思考スルモ本件  
ハ更ニ軍事的立場ヨリ考慮スルヲ要スベシ即チ先  
方提示區域ニ對スル全部ノ試掘願提出ハ本邦側技  
術者數ノ關係ヨリモ先方ニ於テ奇異ニ感スヘシト  
モ察セラルルモ我方トシテハ全部ニ對スル調査ヲ  
爲シ相當數ノ飛行機並ニ便衣隊ヲ入込マシメ以テ  
對前作戦上或種ノ軍事基地タラシムルコト必要ナ  
リト思考ス之カ爲ニハ大ナル調査面積ヲ獲得シ置  
クニアラサレハ右計數モ斷側ニ取り理由薄弱ナル  
ニ付僅カ十五萬乃至二十萬盾ノ差ナルニ鑑ミ試掘  
權ノミハ先方提示全面積ニ付爲シ置クコト肝要ナ  
リト認メラルルニ付右御舎ノ上關係官廳ヲ指導相  
成度シ

RETURN TO ROOM 361  
COPY

IMI 505

169

2.

Doc 2748A(20)

假ニ向井案ノ通り各地域ニ付二、三區域ニ對シ試  
掘權及探掘權ヲ獲得スルコトニ決定スル場合ト雖  
當方ニ於テハ其ノ區域選定ニ付單專的立場ヲ考慮  
ノ上然ルヘク指導致度キ所存ナリ（了）

IMT 506

170

I further certify that the above listed documents are official documents of the Japanese Government, and they are part of the official archives and files of the following named ministry or department (specifying also the file number or citation, if any, or any other official designation of the regular location on the document in the archives or files): \_\_\_\_\_

\_\_\_\_ Foreign Ministry \_\_\_\_\_

Signed at Tokyo on this

1st day of Nov., 1946.

/s/ K. Hayashi  
Signature of Official  
SEAL  
Chief, Archives, Section  
Official Capacity

Witness: /s/ Nagaharu Odo

Statement of Official Procurement

I, \_\_\_\_\_ Richard H. Larsh \_\_\_\_\_ hereby certify that I am associated with the General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powers, and that the above certification was obtained by me from the above signed official of the Japanese Government in the conduct of my official Business.

Signed at Tokyo on this

4th day of Nov., 1946

/s/ Richard H. Larsh  
NAME

Witness: /s/ J.A. Curtis 2d Lt.

Investigator, IPS  
Official Capacity

Qx 1301

DOC 2748A

證明書

ワシントン文書局第

号

國際檢察部第二七四八A号(三)ヨリ(二〇)全部

出所及典據確實性ニ関スル陳述

余即チ林毅香ハ本證明書ヨリ次ノ資格即チ日本外務省  
文書課長トシテ日本政府ト公的関係ニ在ルモノナルコト且  
又右官吏トシテ以下記載ノ(三)ヨリ(二〇)マデヲ含む本證書添  
付ノ書類ヲ保管スル者ナルコトヲ證明スル。

(一)一九四〇年昭和十五年八月十四日一般通商ノ増進及通商  
障害ノ除去ニ関スル要求項目三三頁

(二)對蘭印要求一九頁 (一)ト同日附

(三)企業及投資問題三七頁

(四)日本國及蘭印間ノ經濟問題ニ関スル交渉ノ件一〇頁

(五)一九四〇年昭和十五年九月十三日附「在バタビヤ」小林全  
權發松岡外務大臣宛電報第五号」ト題スル四頁ヨリ成  
ル日本語原文

(六)一九四〇年昭和十五年九月十三日附「在バタビヤ」小林代  
表發松岡外務大臣宛電報第九号」ト題スル二頁ヨリ成ル日  
本語原文、モノ

(七)一九四〇年昭和十五年十月十二日附「在バタビヤ」小林代  
表發松岡外務大臣宛電報第六六号」ト題スル一頁ヨリ成ル  
日本語原文

(八)一九四〇年昭和十五年十月十八日附「在バタビヤ」小林全權  
發松岡外務大臣宛電報第八二号」ト題スル二頁ヨリ成ル日本  
語原文

2748A

(九)一九四〇年／昭和十五年／十一月二日附 蘭領印度支那特派使節 小林一三／松岡外務大臣宛 報告書ニ三頁

(一〇)一九四一年／昭和十六年／二月二十七日附「在日バタビヤ」特派使節ヨリ松岡外務大臣宛 電報第三五号」ト題スル一頁ヨリ成ル日本語原文

(一一)一九四一年／昭和十六年／二月二十八日附「松岡外務大臣宛在日バタビヤ」芳沢代表宛 電報第四号」ト題スル一頁ヨリ成ル日本語原文

(一二)一九四一年／昭和十六年／三月二十八日附「近衛 T.N. 兼攝外務大臣宛在日バタビヤ」芳沢代表宛 電報第六八号」ト題スル二頁ヨリ成ル日本語原文

(一三)一九四一年／昭和十六年／五月二十三日附「松岡外務大臣宛在日バタビヤ」芳沢代表宛 在英国重老大使宛、在美国野村大使宛 電報第一二七号」ト題スル二頁ヨリ成ル日本語原文

(一四)一九四一年／昭和十六年／六月七日附「在日バタビヤ」芳沢代表宛 松岡外務大臣宛 電報第二二七号」ト題スル四頁ヨリ成ル日本語原文

(一五)一九四一年／昭和十六年／六月十四日附「松岡外務大臣宛在日バタビヤ」芳沢代表宛 電報第一四七号」ト題スル三頁ヨリ成ル日本語原文

(一六)一九四一年／昭和十六年／六月十五日附「在日バタビヤ」芳沢代表宛 松岡外務大臣宛 電報第二三七号」ト題スル三頁ヨリ成ル日本語原文

2748A

(一七)一九四〇年/昭和十五年六月十六日附「松岡外務大臣發在  
「バタビヤ」<sup>ロ</sup> 芳沢代表宛電報第一五〇号」ト題スル三頁ヨリ  
成ル日本語原文

(一八)一九四〇年/昭和十五年<sup>九</sup>七月三日附「松岡外務大臣發在  
「バタビヤ」<sup>ロ</sup> 齊藤總領事宛電報第三九六号」ト題スル二頁  
ヨリ成ル日本語原文

(一九)一九四〇年/昭和十五年<sup>九</sup>七月十八日附「在「バタビヤ」<sup>ロ</sup> 小林代表  
發松岡外務大臣宛電報第二一号」ト題スル三頁ヨリ成ル日本  
語原文

(二〇)一九四〇年/昭和十五年十月二十五日附「在「バタビヤ」<sup>ロ</sup> 齊藤  
代表發松岡外務大臣宛電報第一〇〇号」ト題スル二頁ヨリ成ル  
日本語原文

尚前記目錄ノ書類ハ日本政府ノ公式文書ナリ且又コレヲ  
書類ハ下記省又ハ局ノ公式記録及文書綴ノ一部分ナルコトヲ  
證明スル。

(前記書類ニ綴番号又引用アルトキハ之ヲ記シソノ他  
記録或ハ文書綴中ニオケル書類ノ正規ノ所在ヲ示ス公式表示  
ヲ明記ス) 外務省

一九四六年/昭和二十一年十一月一日東京ニオイテ署名

當該官吏署名 ケー 林署名 林捺印  
右ノ者ノ公的資格 外務省文書課長  
證人 尾戸長春署名



2748A

公式入手ノ陳述

私即チ、リチャード・H・ラーシュニハ茲ニ私カ聯合軍最高司令官總司令部關係者アリ、且又前記證明書ハ私ノ公務上日本政府ノ前記署名官吏ヨリ入手シタモノナルコトヲ證明ス、  
一九四六年 昭和二十一年十一月四日東京ニ於テ署名

氏名

リチャード・H・ラーシュノ署名

右ノ者ノ公的資格 國際檢察部調査官

證人

J. A. カークス少尉ノ署名

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2748 - 2748-A-(20)

4 Nov 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Typewritten File of Japanese Foreign Office Documents Relating to Dutch-Japanese Commercial and Diplomatic Negotiations, 1940-1941

Date: Aug 40-June 41 Original ( ) Copy (x) Language: Japanese

Has it been translated? Yes ( ) No (x)

Has it been photostated? Yes ( ) No (x)

LOCATION OF ORIGINAL

Foreign Ministry, IJG

SOURCE OF ORIGINAL: Foreign Ministry

PERSONS IMPLICATED: KOBAYASHI, Ichizo; MATSUOKA, Yosuke

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Relations with the Netherlands; Economic Preparations for War

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Series of documents touching upon various phases of the Dutch-Japanese negotiations 1940-1941 in which the Japanese government attempted to gain certain economic concessions and agreements regarding the Netherlands East Indies.

Includes Foreign Ministry Memoranda, confidential reports, and messages exchanged between envoys in Batavia and the Foreign Ministry in Tokyo. Documents are numbered and titled as follows:

Doc. No. 2748 - Certificate from Japanese Foreign Ministry covering all items.

Doc. No. 2748-A-(1) Items of Demands made on 14 Aug 1940, in regard to the progress of General commerce and elimination of the Commercial obstacles.

Doc. No. 2748-2748-A-(20)  
Page 1

- Doc. No. 2748 - 2748-A-(20) Page 2 - Summary Cont'd
- Doc. No. 2748-A-(2) Demands upon the N.E.I.
- Doc. No. 2748-A-(3) Problems in regard to enterprise and investment.
- Doc. No. 2748-A-(4) Negotiation on Economic problems between Japan and the N.E.I.
- Doc. No. 2748-A-(5) "Telegram No. 5 from Chief of Mission Kobayashi at Batavia to Foreign Minister Matsuoka" on 13 Sep 1940
- Doc. No. 2748-A-(6) "Telegram No. 9 from Chief of Mission Kobayashi at Batavia to Foreign Minister Matsuoka" on 13 Sep 1940
- Doc. No. 2748-A-(7) "Telegram No. 66 from Chief of Mission Kobayashi at Batavia to Foreign Minister Matsuoka" on 12 Oct 1940
- Doc. No. 2748-A-(8) "Telegram No. 82 from Chief of Mission Kobayashi at Batavia to Foreign Minister Matsuoka" on 18 Oct 1940
- Doc. No. 2748-A-(9) Report from Chief of Mission to Netherland Indo-China, Kobayashi Ichize, to Foreign Minister Matsuoka on 2 Nov 1940
- Doc. No. 2748-A-(10) "Telegram No. 35 from Chief of Mission at Batavia to Foreign Minister Matsuoka" on 27 Jan 1941
- Doc. No. 2748-A-(11) "Telegram No. 24 from Foreign Minister Matsuoka to Chief of Mission Yoshizawa at Batavia" on 28 Jan 1941
- Doc. No. 2748-A-(12) "Telegram No. 68 from Foreign Minister Konee to Chief of Mission Yoshizawa at Batavia" on 28 Mar 1941
- Doc. No. 2748-A-(13) "Telegram No. 1117 from Foreign Minister Matsuoka to Chief of Mission Yoshizawa at Batavia, Ambassador Shigemitsu to Great Britain, Ambassador Nomura to the United States, on 23 May 1941

Doc. No. 2748 - 2748-A-(20) Page 3 - Summary Cont'd

Doc. No. 2748-A-(14) "Telegram No. 227 from Chief of Mission Yoshizawa at Batavia to Foreign Minister Matsueka;" on 7 Jun 1941

Doc. No. 2748-A-(15) "Telegram No. 147 from Foreign Minister Matsueka to Chief of Mission Yoshizawa at Batavia", on 14 Jun 1941

Doc. No. 2748-A-(16) "Telegram No. 237 from Chief of Mission Yoshizawa at Batavia to Foreign Minister Matsueka" on 15 Jun 1941

Doc. No. 2748-A-(17) "Telegram No. 150 from Foreign Minister Matsueka to Chief of Mission Yoshizawa at Batavia" on 16 Jun 1941

Doc. No. 2748-A-(18) "Telegram No. 396 from Foreign Minister Matsueka to Consul General Saito at Batavia" on 3 Nov 1940

Doc. No. 2748-A-(19) "Telegram No. 21 from Chief of Mission Kobayashi at Batavia to Foreign Minister Matsueka" on 18 Nov 1940

Doc. No. 2748-A-(20) "Telegram No. 100 from Chief of Mission Saito at Batavia to Foreign Minister Matsueka" on 25 Oct 1940

2748-A

證明書

「ワシントン」文書局 第 號

國際 檢察 部 第 2748-A 號 (二) ヨリ (ニ)。

典據及ビ公正ニ關スル證明

余、林 馨 ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ外務省

文書課長 トシテ、日本政府ト公的關係ニ在ル

モノナルコト、竝ニ該官吏トシテ余ガ茲ニ添附セラ

レタル、頁ヨリ成ル、千九百 四十年ノ昭和

十五年ノ 附、下記題名、即チ別紙目次

ノ文書ノ (二) ヨリ (ニ)。

保管ニ任ジ居ルコトヲ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ添附ノ記録及ビ文書ガ日本政府ノ公文書ナ

ルコト、竝ニ右ガ下記名簿ノ省又ハ部局ノ公式書類

及ビ綴ノ一部ナルコトヲ證明ス。(若シアラバ綴番號又

ハ引用、其ノ他公式書類又ハ綴ニ於ケル該文書ノ成規所在ノ公式名

簿ヲモ特記スベシ)

千九百四十六年ノ昭和二十一年ノ十一月一日

東京ニ於テ署名

林 馨

當該官吏署名欄 右ノ者ノ公的資格外務省文書課長

人 尾 長 夫

公式入手ニ關スル證明

余、R. H. ラーニエ ハ、余ガ聯合國最高指揮官總司令

部ニ關係アルモノナルコト、竝ニ上記題名ノ文書ハ

余ガ公務上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタ

ルモノナルコトヲ茲ニ證明ス。

千九百四十六年ノ昭和二十一年ノ 月 日

ニ於テ署名

氏 名 欄 Richard H. Lank

右ノ者ノ公的資格 Investigator, IPS

證 人 R. Lank 2/14



2148-A(7)

No. 7

昭和15 三一―一二四

(暗)

本 省

十月十二日後發

十二日夜着

歐、通

松岡外務大臣

會商第六六號

小林代表

東亞共榮圈確立ノ大方針ニ副ヒテ國論ノ統一ヲ期スルコト此ノ際  
 最緊要ト存セラル右ニ關シ國民一般ハ蘭印ニ關スル深キ認識ヲ有  
 セサルハ甚タ遺憾ナルヲ以テ蘭印ノ資源ノ豐富ナルコト日本ト有  
 無相通スルノ關係ニアルコト(英米ヨリ經濟壓迫アリタル場合ニ  
 於ケル蘭印資源ノ地位ヲ含ム)及日本人ノ安樂居住ノ地タルコト  
 深ク印象理解セシメ置クコト肝要ナリト思考セラルルニ付テハ極  
 メテ頻繁ニ右ニ關スル「ラヂオ」放送ヲ行フト共ニ或ハ講演或ハ  
 「パンフレット」ヲ以テ右目的ニ最善ヲ盡サルル様關係方面ト御  
 聯絡アリタキ希望ニ堪ヘス(了)

REQUEST FOR DOCUMENT NUMBER

FROM:

M. Lauerge

Room No.

324

TO : Document Division

Request a document number be assigned the following item:

(Give description to enable you to identify document. Use separate sheet for each item to be handled as a separate document.)

*Assorted documents*

*on Dutch - Japanese negotiations,*

*1940-41 -*

Deadline date on my final brief is:

FROM: Document Division.

The above has been assigned Doc. No. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_